

## 新たな役割、新たな目標、発展中の中国国家図書館

中国国家図書館館長補佐 汪東波

本日は日本の国会図書館の職員の皆様と第34回日中業務交流を行うことができ、大変嬉しく思います。中国国家図書館（NLC）を代表して、今回の業務交流開催に対する貴館のご尽力に心より感謝申し上げます。続きまして、NLCのこの1年の主要業務及び重点プロジェクトの基本状況、並びに今後5年間の事業発展計画の枠組みを簡単にご紹介いたします。

### 一、2015年のNLC事業発展概況

近年、経済・社会の発展及び公衆の需要に合わせて、NLCの役割は新しく変化し発展しています。現在は主に中国国家典籍保護センター、国家典籍博物館、及び国家文献情報資源総書庫（国家総書庫）、国家図書目録センター、全国図書館情報ネットワークセンター及び全国図書館発展研究センター等の役割を担っており、これらの役割を遂行することを軸として、以下のような各種事業を着実に推進しています。

—基礎的な施設の条件が改善され、業務の枠組みが合理化されました。本館南区の改修工事が終わり、総合サービス棟が新築されて運用を開始したことで、建物の面積は28万㎡まで増加し、文献の保存環境、利用者の閲覧環境、職員の労働環境のすべてが大きく改善しました。本館南区、北区及び古典籍館の3つの施設が相互に機能を補完して緊密に連携するという業務構造がより一層明確になりました。

—所蔵文献の規模は拡大を続け、蔵書構成の整備が進みました。2015年9月末までに、所蔵する文献資源の総数は3472.77万冊（点）に達し、123言語の資料を所蔵しています。インターネット資料の収集、口述史料の収集、様々なタイプの蔵書のデジタル化等を通して、デジタル資料の構築を順次進めており、国家図書館が制作したデジタル資料の総量は1115.93TBに達しました。

—公共文化サービスを提供する役割がより一層拡充され、サービス力が全面的に向上しました。2014年、国家典籍博物館及び国家図書館芸術センターが開館し、古典籍の展示、芸術教育といったサービス機能が効果的に拡充され、サービス力がさらに向上しました。2015年9月末までに、延べ292.89万人の来館者を迎え、ウェブサイトへのアクセス数は11億回を超えました。また、文献の閲覧数は1751万冊を超え、74.79万件の各種レファレンスに回答しました。さらに、様々な無料展覧会や講座を295回実施し、その他に研修、参観、演奏会といった様々なイベントを3,625回企画しました。

—重点文化プロジェクトには重要な進展がありました。電子図書館拡大推進プロジェクト

は専用ネットワークの構築という基礎の上に、地域の“専用ネットワーク連盟”という試験事業を立ち上げ、省立図書館間の専用ネットワークの相互接続と資源の共有を進めています。古典籍全面調査プラットフォームの登録データ数は約92万件に達し、民国期総合目録システムの目録データ数は20.7万件に達しました。全国に12か所の「国家古典籍保護人材研修センター」と7か所の国家レベルの古典籍修復技術訓練所を設置しました。「中華古典籍全面調査ボランティアサービス活動」を立ち上げ、高等教育機関に所属するボランティアの古典籍全面調査業務への参加を受け入れています。

—国内外における交流と協力を推進しています。図書館事業の発展に関する研究を展開して政府関連部門が図書館事業の発展政策を策定、実施することを補佐しており、現在は『公共図書館法』、『古典籍保護条例』等の立法を補佐する研究と条文の起案作業に参加しています。国内の様々なレベルの図書館や研究機関と連携し、図書館分野の標準規範を制定しました。業務に関する教材を編集し、現場の図書館員に対して様々な形式の研修を提供しています。他国の図書館や文献機関と協力し中国語古典籍のデジタル化プロジェクトを実施しています。文化主管部門が海外の中国文化センターの情報資源及びサービスを支援する方案を制定することを補佐しています。

## 二、当面の重点業務

### (一) 典籍博物館

国家典籍博物館は2014年7月15日に試験開館し、9月9日正式開館してサービスを開始しました。一年あまりの間に、セミナー、展覧会、研修等のイベントの実施や文化クリエイティブ製品の開発に関して積極的に模索してきました。展覧会については、常設展示を整備拡充するとともに、いくつかの重大なテーマに関する展覧会も開催しました。例えば、“三山五園文化巡回展—円明園四十景文化展”“冊府千華—古典籍保護成果シリーズ展”“私たちの文字—無形文化遺産としての文字の伝承”“きらめく子供時代—中国百年児童書展”等です。今年の上半期だけで、すでに延べ28万人余りの来場者を迎え、無料の解説を約1800回実施し、各界の様々な分野、様々な地域から来た個人及び団体延べ約8700名に対して300回余りの参観ガイドサービスを提供しました。文化クリエイティブ製品の開発においては、今年初めて当館の文化クリエイティブギフト3シリーズを第12回「北京の贈り物」旅行土産大会に出品したところ、3シリーズすべてが海淀区の1回戦を通過して賞を獲得し、そのうち慶賞昇平イラストシリーズは一等賞を獲得しました。

### (二) 国家図書館公開講座

「国家図書館公開講座」は今年4月23日の世界読書デーにインターネット上に公開されました。「MOOC」の大規模、オープンアクセス、オンラインという理念を参考に、NLCの豊富な紙媒体の蔵書、デジタル資料及び長年蓄積された専門家、学者による講義等のリソースを利用して、16学科、12テーマに渡る878の選りすぐりの講座を公開しています。さらに、すでに公開されているものの中から質が高く、当館が著作権を保有している70の情報資源を厳選してその英語版を制作しました。現在、このプロジェクトのページの

延べ閲覧者数は37万人に迫っています。この他、このプロジェクトの科学的規範の発展を推し進めるため、「国家図書館公開講座」シリーズの標準の草案、技術プラットフォームサポート方案及び宣伝推進方案も制定しました。

### (三) 国家文献戦略的保存書庫の構築

国家文献戦略的保存書庫に関するプロジェクトの計画は2011年から始まりました。図書館が所蔵する各種文献の遠隔地における戦略的保存及びデジタル資料の遠隔地における災害対策用バックアップを通じて文化的メディアの長期安全保存を確保することを目的としています。プロジェクトの発足後は、マイクロによる複製、デジタル化、古典籍の修復、文献の脱酸素処理等の方法で、全国に対して、重要な戦略性を備えた資料の利用支援及び欠落資料の補充を行っています。また、条件の許す範囲で、各省・市立図書館に代わってそれらの図書館が所蔵する一点ものの資料や貴重書の保存を行っています。現在、国家文献戦略的保存書庫の建設地、初期の建設規模及び経費予算はすでに国家発展改革委員会の承認を得ています。

### (四) インターネット資料、口述史等新しい文献情報資源の構築

社会の情報環境の発展と変化に合わせて、NLCは絶えず資料の収蔵範囲を拡大し、インターネット資料、口述史等新しい文献情報資源の選択と収集を積極的に進めています。

2015年10月までに、インターネット情報資源収集保存試験プロジェクト(WICP)ではすでに5万余りの政府ウェブサイトと128の専門サイトを収集しており、データの総量は約133.22TBに達しています。この試験プロジェクトに基づき、現在、NLCは全国的なインターネット資源収集保存事業を計画しています。国内の関連機関の連携を進め、包括的かつ系統的に国内のインターネット情報資源を収集・保存し、国際的なインターネット情報を重点的に収集・保存していきます。

2012年に立ち上げた「中国の記憶」プロジェクトは、国家と民族の発展における重大事件、重要人物をめぐる、口述史料、手稿、手紙、写真や実物等、特定のテーマに関する資料の収集と整理を行うもので、現在すでに、「漆塗り装飾」「中国の年画」「私たちの文字」等のテーマについて、600時間余りの口述史料を蓄積し、中国の記憶プロジェクト実験ウェブサイト(<http://www.nlc.cn/cmptest/>)で提供しています。この他、現在の文化クリエイティブ産業の発展の需要に合わせて、NLCは国家アニメ公共素材倉庫の構築業務を引き受けています。この素材倉庫は2013年から正式にインターネット上でサービスを開始したもので、現在すでに3D動画素材、2D動画素材、音響効果素材、創意参考素材といった4つの大分類、199の小分類の3万件近いアニメーション素材を提供しており、国内有数の漫画学校、アニメーション企業との協力も行っています。

### (五) 海外中華古典籍の調査及びデジタル化における協力

“海外中華古典籍調査及びデジタル化協力プロジェクト”はNLCが2015年に新たに立ち上げたプロジェクトであり、海外に散逸している中華古典籍を様々な方法で調査し、海外の

各所蔵機関と協力して、貴重な古典籍をデジタル化した形で祖国に戻すことを推進し、文献の利用と学術研究の利便性を図ることを目的としています。プロジェクトの発足以降、フランス国家図書館から『円明園四十景図』のデジタル版、イギリスオックスフォード大学ボドリアン図書館から19冊の『永楽大典』の高画質デジタル版の寄贈を受けました。また、「海外古典籍登録プラットフォーム」の構築を開始し、累計12,695件のデータを登録しました。また『海外中華古典籍貴重書叢書』、『海外中華古典籍書目書誌叢書』等の出版プロジェクトを立ち上げ、『宋拓本蘭亭序』、『スペイン所蔵中国語古典籍目録』、『文求堂書目』等を出版しました。また、北米の大学図書館と善本の書誌の執筆及び目録作成の分野で協力を実施しました。また、日本で『永楽大典』を所蔵している団体との協力プロジェクトを立ち上げ、影印本の出版への協力を要請する書簡を8つの機関に送付しました。

#### (六) 少年児童及び障害者向けサービス

NLCは2010年から、本館北区に少年児童向けのサービススペースを開設しました。親子での閲覧、幼児の閲覧、絵本の閲覧等の分野で模範的、先導的な役割を積極的に発揮し、少年児童向け読書リストの推薦、少年児童図書館員の養成、少年児童図書館の標準の策定等の業務で、全国各レベルの公共図書館と広く交流・協力を行っています。2015年6月1日、少年児童館新館が移転開館し、サービススペースの面積は1200㎡に拡大し、文献数と閲覧席数は以前の2倍に増加しました。開館日当日は、約2,200名の子どもたちと保護者を迎えました。

障害者向けサービスでは、2008年に中国障害者連合会情報センター、中国点字出版社と協力して中国盲人電子図書館を構築し、2010年には全国図書館情報サービスバリアフリー連盟を発足させました。現在、中国盲人電子図書館は視覚障害のある利用者に電子書籍、オーディオブック、音楽、オンライン講座等を含む各分野の資料約15,000種を提供しています。

この他、2015年10月からは、テンセント微信市場が始めた「The Voice Donor：目の見えない人たちのために朗読する」プロジェクトの音声資源を段階的に収集・保存し、中国盲人電子図書館の利用者に提供しています。全国の33の省レベル図書館と連携して宣伝普及活動も行っており、将来的には各省市レベルの図書館に副本を提供して、これらの音声資源を共有する予定です。

### 三、「十三五（第13次5か年計画）」時期におけるNLC戦略発展構想

2015年は国家国民経済及び社会発展「十二五（第12次5か年）」計画の最後の1年です。これからの5年間は、中国が目標とする小康社会（いくらかゆとりのある社会）の全面的建設を達成するための鍵となる時期であり、体制機構改革の全面的な深化及び経済発展方式の転換の加速という難題に取り組む時期でもあります。文化事業は国の経済社会発展の中での地位を明白に向上させています。現代の公共文化サービス体系の構築が一層進み、ビッグデータ、クラウドコンピューティング、モノのインターネット、モバイルイン

ターネットに象徴される現代の情報技術が急速に発展する中で、NLCは国家レベルの公共文化の伝承と提供を担う重鎮として、事業発展の新たなチャンスと挑戦に直面しています。2015年の初め、新任の文化部部長である笹樹剛氏はNLCの年度報告において、「国家図書館の地位及び役割は掛け替えのないもの、唯一無二のものである。必ずや『国内最高、世界のトップ』水準に到達しなければならない」と指示し、新たな体制の下でのNLCの重要な地位及び役割を指摘して、国家図書館の未来の発展の目標と重点を明確にしました。

NLCは「十二五」時期の発展の成果及び存在する問題を全面的に総括・整理したうえで国際的な図書館事業の発展動向や趨勢について系統的に研究し、わが国の経済・社会と図書館事業の発展状況を結びつけて、国の「革新的な発展、協調的な発展、グリーンな発展、開放的な発展、共有できる発展」という理念の指導のもとに、図書館事業発展の基本思想を打ち出しました。主にNLCの役割の十分な履行に関するものであり、目標指向と問題指向の結合、予測牽引性と現実的指導性の結合、マクロ的視野と現実的需要の結合、定性目標と定量目標の結合という原則を堅持して、以下の重点業務を計画しました。

一つ目。国家文献情報資源総書庫の構築に引き続き力を入れ、実物資料とデジタル及びネットワークリソースを十分に融合させた現代的蔵書体系の構築を促進し、年平均で所蔵文献を100万冊（点）以上、デジタル資料を100TB以上増加させるという目標を実現します。

二つ目。国家文献情報資源総目録の作成を迅速に進め、所蔵する文献情報資源の目録体系を合理化し、各種文献情報資源の統合検索と整合提示を強化し、国家図書目録及び全国図書館総合蔵書目録の作成を全面的に推し進めて、当館の知識提供及び知的サービス能力を著しく向上させます。

三つ目。国の立法・政策決定を支える新型シンクタンクを積極的に構築し、国の立法・政策決定に対する文献保障能力を全面的に向上させ、専門的サービスの水準及び科学的研究能力を高め、中央政府及び国の機関の立法・政策決定にインテリジェンスサポートを提供します。

四つ目。重点教育、科学研究及び企業団体に対する知識サービスを強化します。国家図書館科学評価センターを拠点に科学研究ユーザーを対象とした科学的評価サービスを推進し、中小企業の革新と創業のために文献レファレンスサービスを提供します。

五つ目。ビッグデータ、クラウドコンピューティング、モノのインターネットといった新しい技術を利用して電子図書館の一体化ネットワークの構築を進め、利用者の需要に合わせてデジタルリソースの統合構築、集中提示及び統一管理を強化し、公共デジタル文化サービス能力を向上させて、デジタル業務と伝統的業務の融合発展を推進します。

六つ目。文献の保存及び保護を強化して文献の保存環境をさらに改善し、「国家図書館国家文献戦略的保存書庫」の構築業務を全面的に推進し、「中華古典籍保護計画」と「民国期文献保護計画」の実施にさらに力を入れ、重要文献の整理、研究及び出版を進めます。

七つ目。国内外における交流と協力を強化します。「一帯一路」の国家戦略に則り、重大文化プロジェクトや二者間または多者間の協力プロジェクトを通して、他の図書館及び情報機関との協力・交流を強化します。